

折に触れ 四字熟語

NO. 328 〔迦陵頻伽〕 かりょう びんが

＜ 意味 ＞ 美しい声のたとえ。また、声の非常に美しいもののたとえ。あるいはヒマラヤ山中にいる想像上の鳥の名で、まだ殻にあるときに美しい声で鳴くともいい、極楽浄土にすみ、比類なき美声で鳴く想像上の鳥ともいう。浄土曼荼羅の絵などでは上半身は美女、下半身は鳥の姿で描かれている。

＜ 出典 ＞ 『大莊嚴論經』
だいしょうごんろんきょう

用 例 ： その声ざまの美しさは、極楽に棲むとやら承った迦陵頻伽にも劣るまじい。

＜芥川竜之介・きりしとほろ上人伝＞

語 釈 ： 仏教語。梵語 Kalavinka の音写で、仏典では「好声鳥」「逸音鳥」「妙声鳥」などと訳されており、この鳥の比類ない美声を仏の声にたとえている。

一 言 ： 5月13日の朝日新聞夕刊で、国宝「宝相華迦陵頻伽蒔絵壺冊子箱」
ほうそうげ かりょうびんがまきえそくさっしばこ についての箱の写真付き記事がありました。

参考文献 ： 岩波書店「四字熟語辞典」